

# 令和6年度 「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」結果概要

## はじめに

本報告は、令和7年2月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の概要である。

本学の留学生が直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは定期的に連絡会議を開催し、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される対象は多岐にわたり、効果的・効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、今年度も留学生に対する支援調査を実施した。

本調査は、留学生支援ネットワークのメンバーが内容および構成を検討し、本学学生向け情報ポータルサイト「もみじ」の「アンケート」機能を用い、全留学生を対象に調査を行ったものである。

令和6年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

ハラスマント相談室、保健管理センター、アクセシビリティセンター、グローバルキャリアデザインセンター、学生生活支援グループ、霞地区運営支援部国際室、留学生担当教員、留学交流グループ

## I. アンケートの調査方法と内容

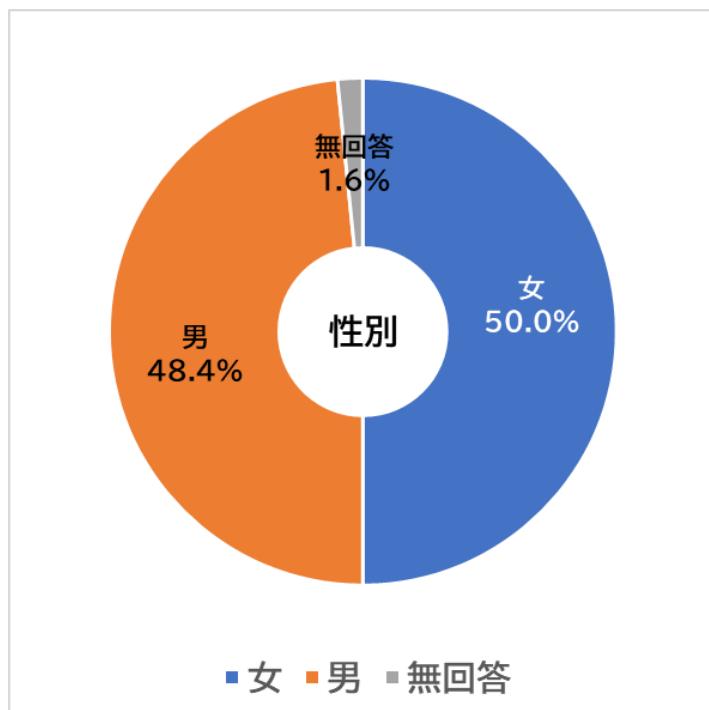
アンケート調査は、本学に在籍する全留学生 2,250名(令和7年2月現在)を対象として実施し、回答数は374であった(回答率は約17%)。アンケート調査項目は日本語と英語を併記した。内容は、(1)一般的な質問、(2)コミュニケーション言語について、(3)広島大学と指導教員について、(4)学生生活支援について、(5)広島大学における学習・生活に関する満足度、(6)進路希望(就職先の希望)、(7)自由記述である。

回答者は、質問によって対象者が異なっていること、一部の質問にのみ無回答の場合などもあることから、質問によって全回答者数に違いがある。

## II.アンケート調査結果

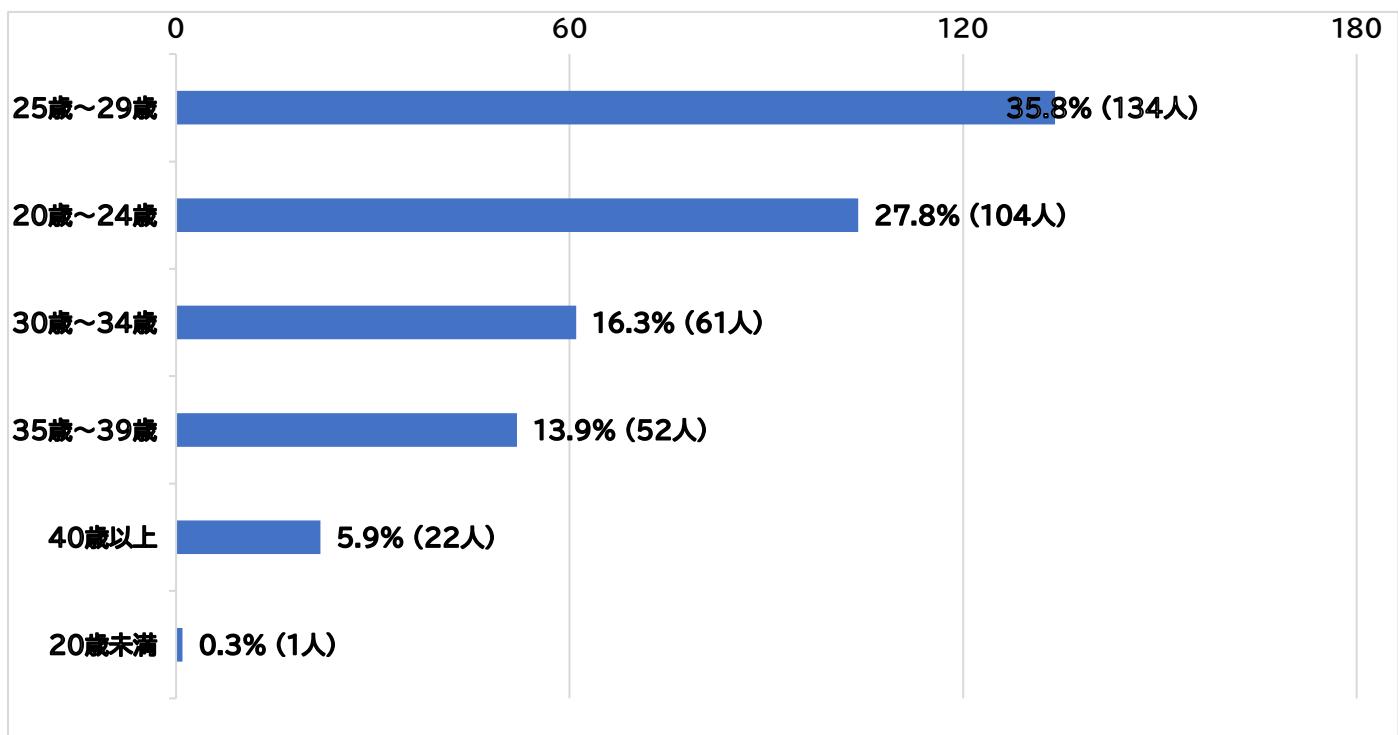
### 1. 一般的な質問

#### 1.1 性別（有効回答374）



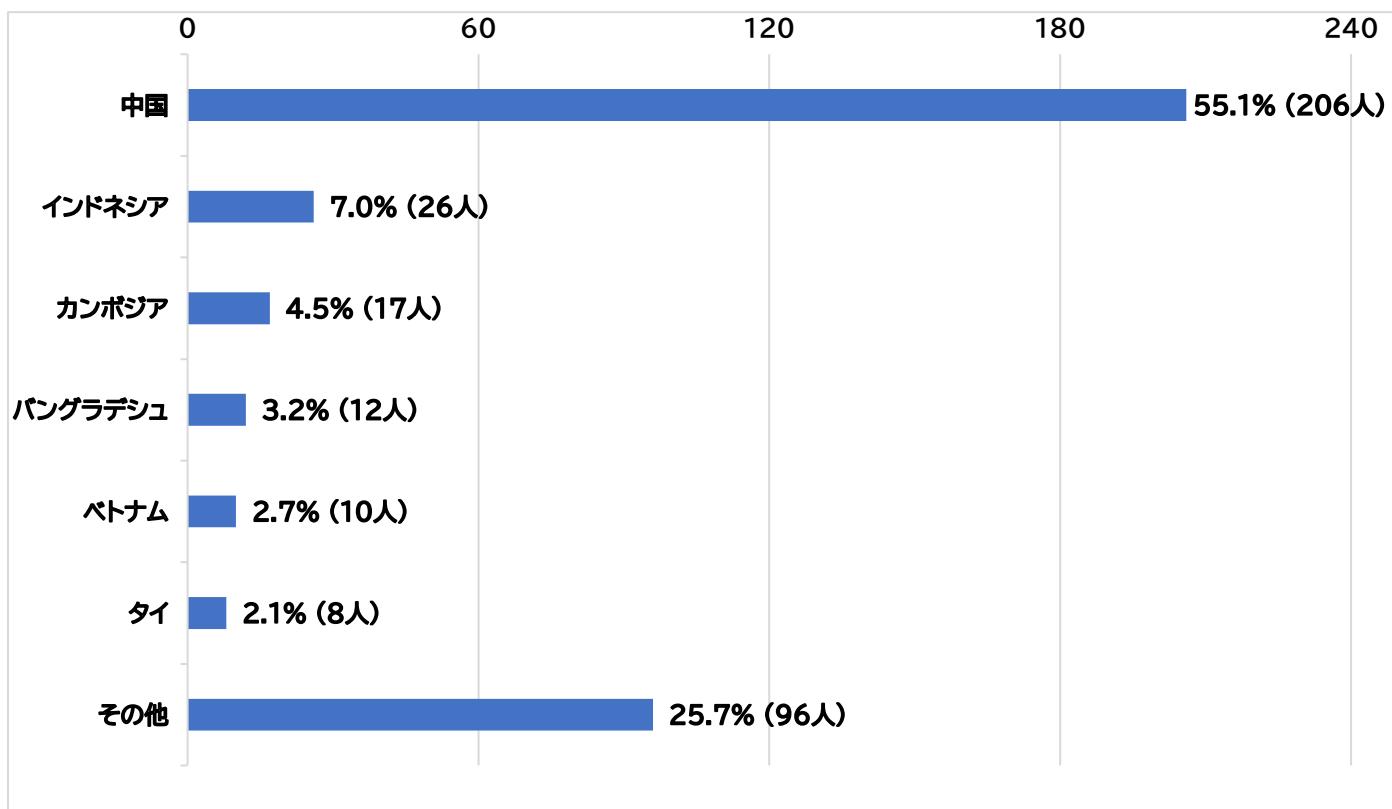
回答者の内訳は女性 187名、男性 181名、無回答6名であった。

#### 1.2 年齢（有効回答 374）



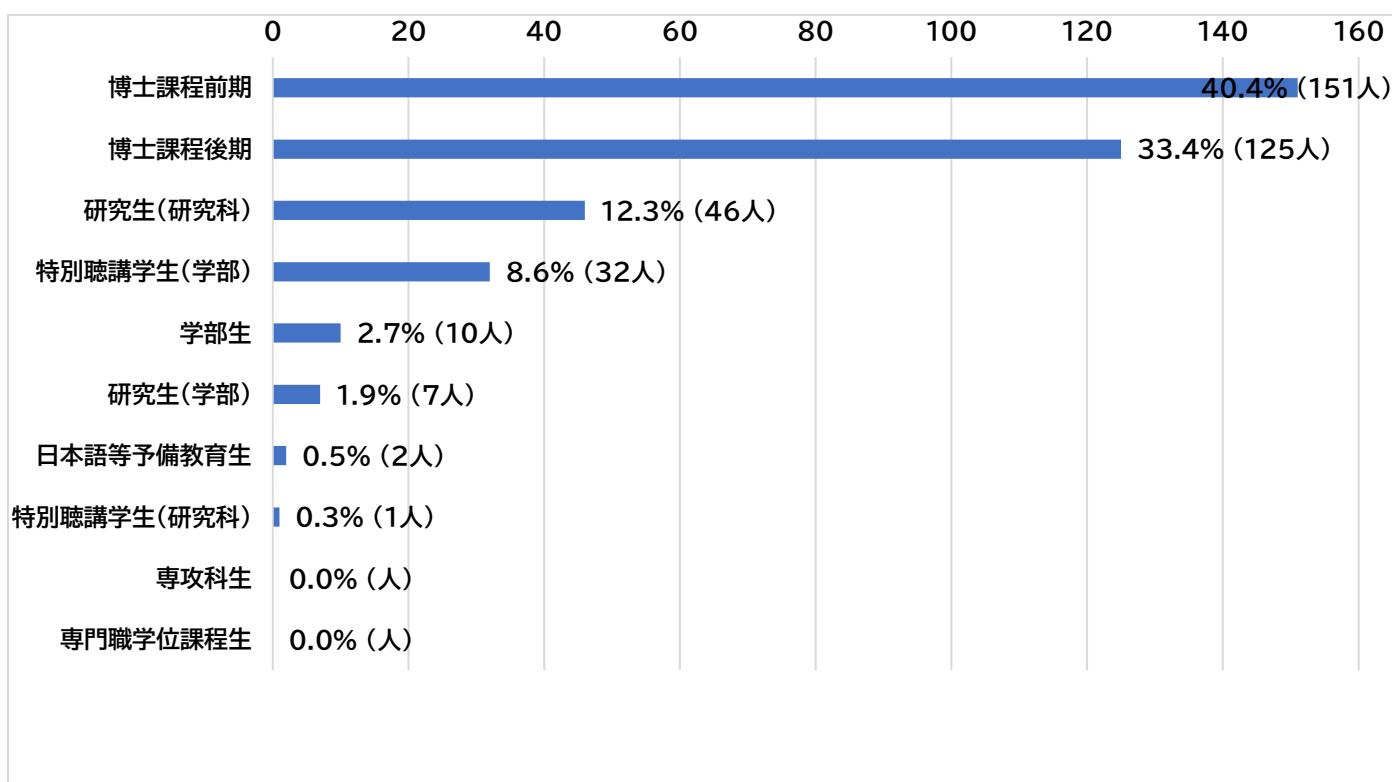
昨年度同様の分布が見られ、20代が回答者の6割以上を占める結果となった。

### 1.3 出身国・地域（有効回答 374）



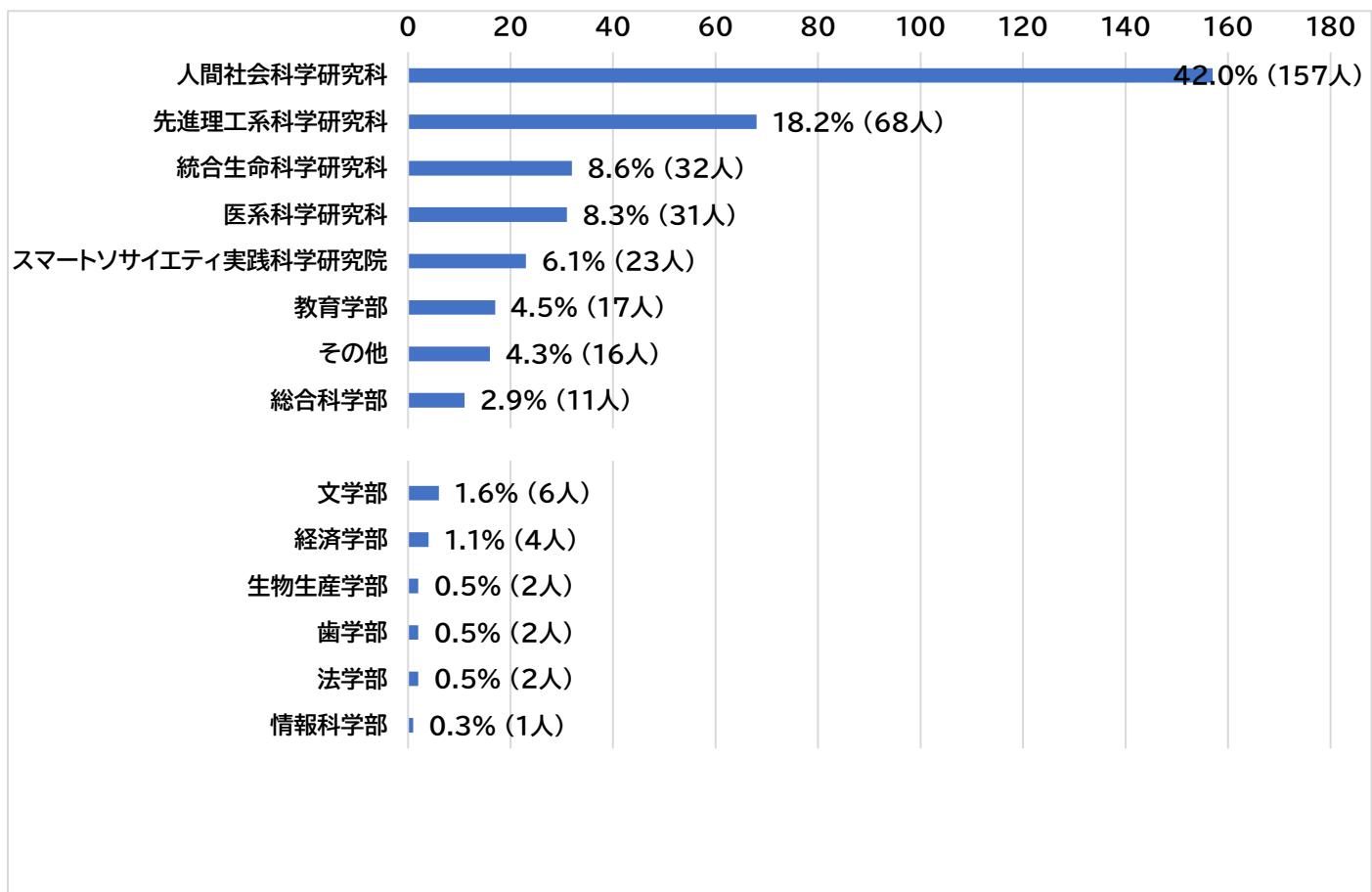
例年通り、中国が半分以上を占め、中国に続いて東南アジア地域出身の学生が高い傾向が見られた。上位5か国は昨年度から変化なし。

### 1.4 学生身分（有効回答 374）



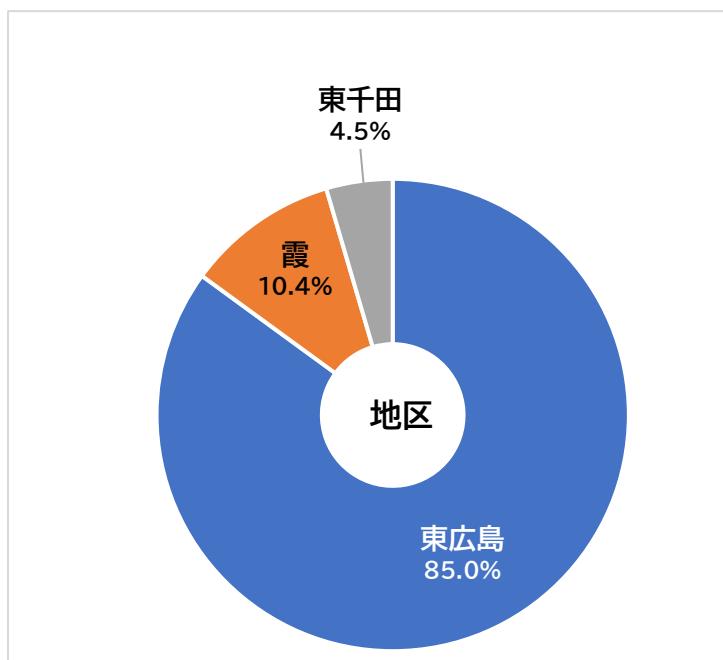
昨年度同様、全体の約 8 割が大学院課程に在籍する学生からの回答であった。

## 1.5 所属 (有効回答 372)



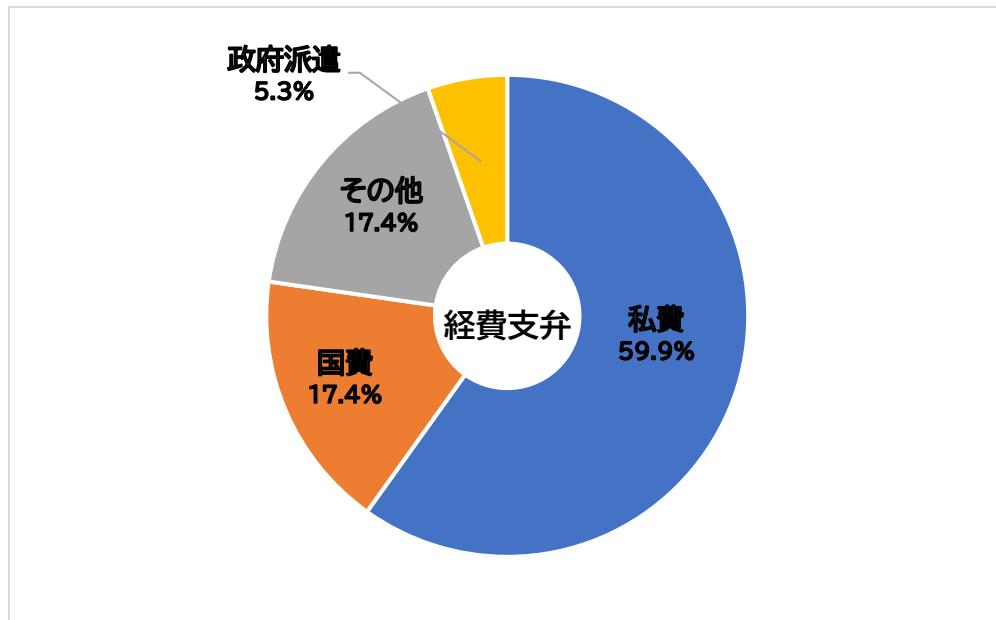
昨年度と比較して、人間社会科学研究科に所属する学生からの回答が増加し(昨年度は 33.3%)、先進理工系科学研究所に所属する学生からの回答が減少した(昨年度は 20.3%)。

## 1.6 地区 (有効回答 371)



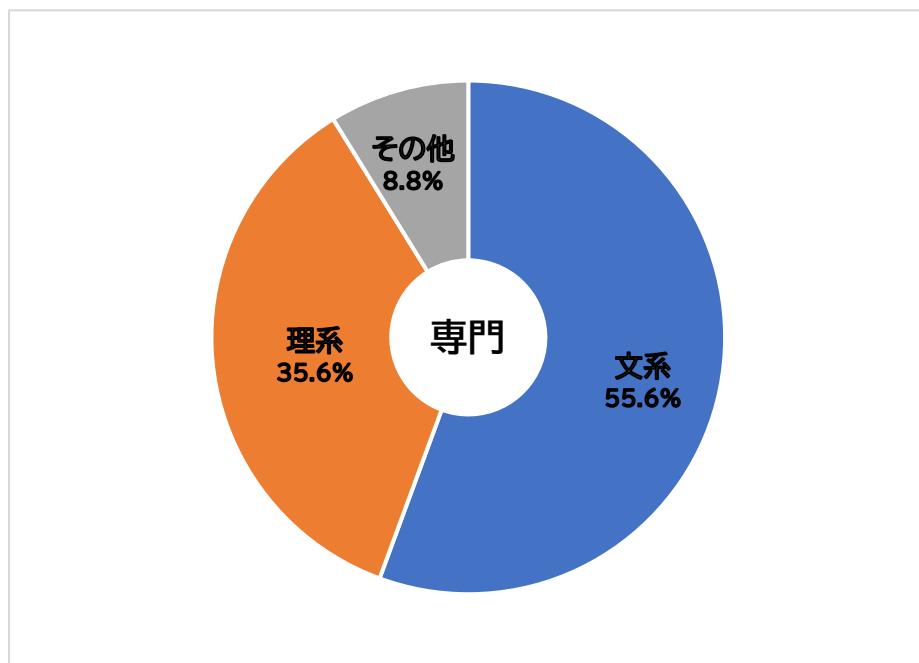
全体としての傾向に変化はないが、今年度は回答者における東千田地区で学ぶ留学生の割合が減少した(昨年度の東千田地区の割合は7.2%)。

### 1.7 私費・国費（有効回答 374）



昨年度と比較して、私費の回答が増加し(昨年度は 54.4%)、国費の回答が減少した(昨年度は 21.5%)。政府派遣の回答は概ね変わりなかった(昨年度は 4.6%)。

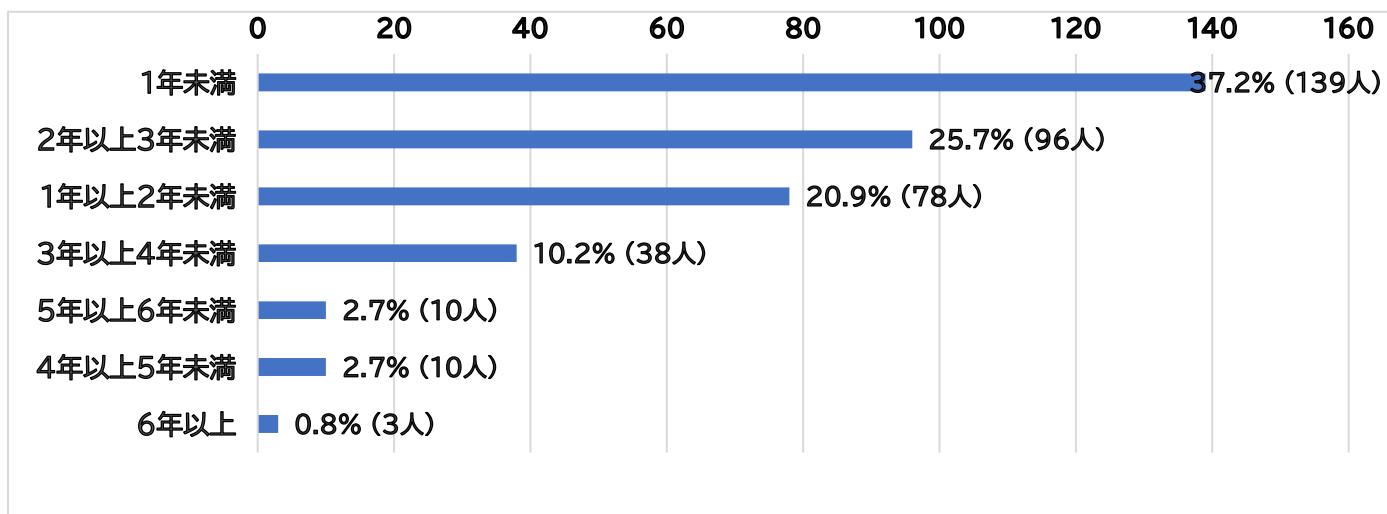
### 1.8 専門（有効回答 374）



昨年度は、文系の回答者より理系の回答者が多かった(文系 37.6%、理系 49.8%)が、今年度は、理系の回答者より文系の回答者が多かった。

一昨年度から、それ以前の傾向が逆転し、理系の回答者が文系の回答者より多くなっていたが、今年度は再び文系の回答者のほうが多いという結果になった。

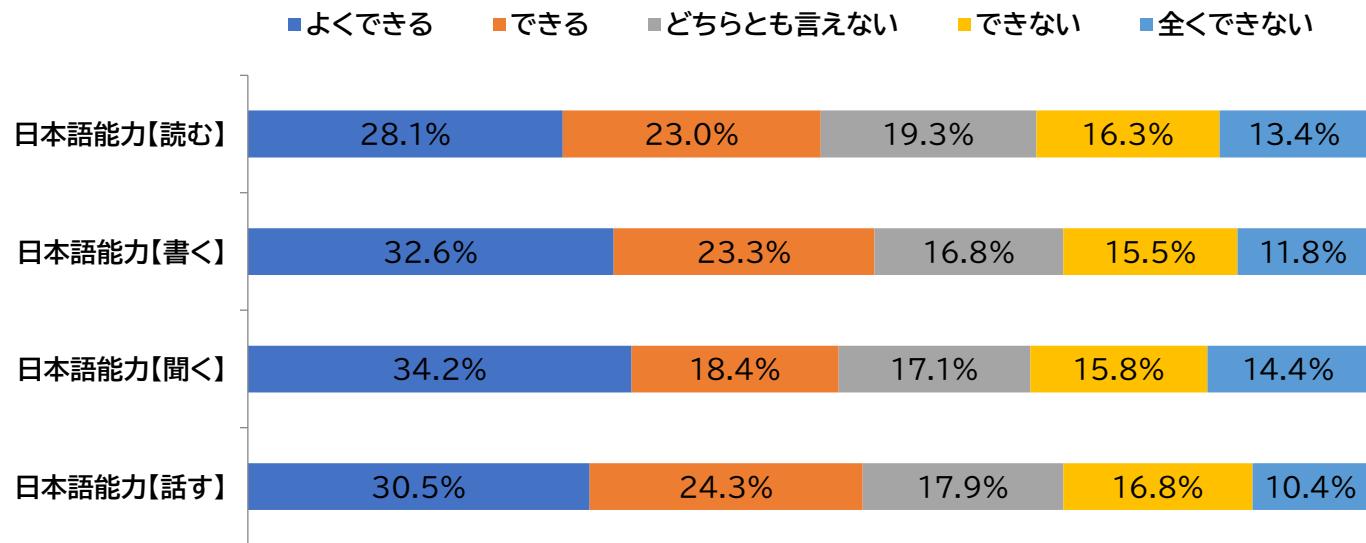
## 1.9 本学での在籍年数（有効回答 374）



在籍年数が 3 年未満の回答者が全体の約 8 割を占めた。

## 2. コミュニケーション言語について

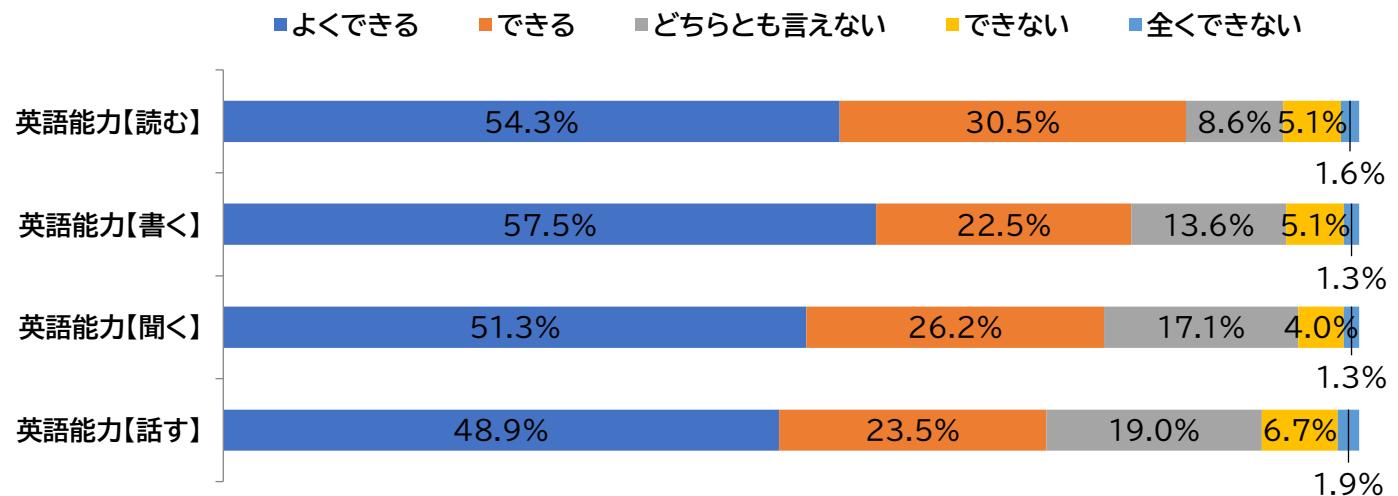
### 2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？（有効回答 374）



昨年度調査では日本語の 4 つの技能において「できない」もしくは「全くできない」と回答した回答者が 50% 程度であったが、今年度調査ではいずれの技能においても 30% 程度に減少している。

日本語が「全くできない」と回答した学生が、いずれの技能でも 10% 以上おり、日本語が「できない」と回答した学生を含めると 25% 以上であった。

## 2.2 あなたの英語能力はどのくらいですか？(有効回答 374)

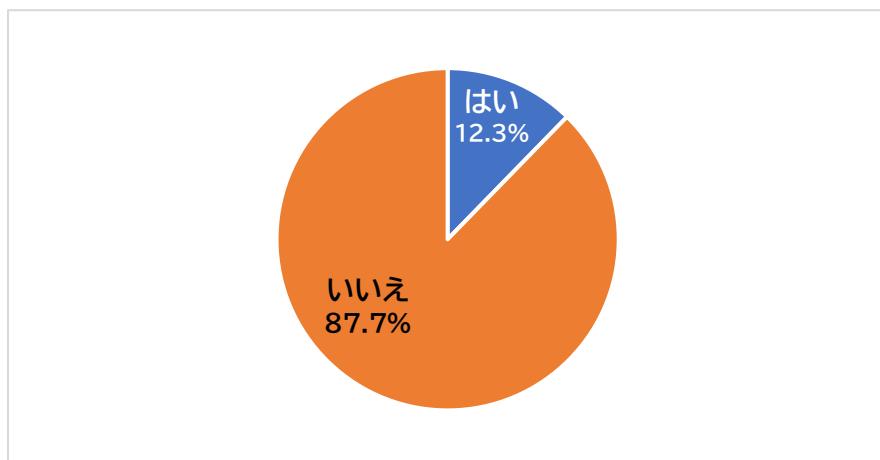


英語が「できない」もしくは「全くできない」と回答した学生の割合は、いずれの技能でも 10%程度であった。

### 3.広島大学と指導教員について

#### 3.1 あなたは留学フェアに参加したことがありますか？(有効回答 237)

【回答者全体】



留学フェアの参加について、およそ1割の学生が「はい」(昨年度は8.0%)と回答し、およそ9割の学生が「いいえ」と回答した。

留学フェアは 2022 年度以降、コロナ禍でのオンライン開催から対面での開催に移行したが、回答者のうち留学フェアに参加したことがある者の割合はコロナ禍前後を通じて大きな変化は見られていない。

	はい		いいえ		n(人)
	n(人)	%	n(人)	%	
全体	46	12.3	328	87.7	374
学生身分	学部生	1	10.0	9	90.0
	博士課程前期	24	15.9	127	84.1
	博士課程後期	14	11.2	111	88.8
	研究生	0	0.0	53	100.0
	特別聴講学生	7	21.2	26	78.8
	その他	0	0.0	2	100.0
私費・国費	私費	25	11.2	199	88.8
	国費	8	12.3	57	87.7
	政府派遣	2	10.0	18	90.0
	その他	11	16.9	54	83.1

学生身分別では、昨年度同様、博士課程前期における留学フェア参加経験者の人数が最多となった。

### 3.2 あなたは、どんな情報をもとに広島大学を選びましたか？(複数回答可)

	広島大学 HP		出身大学からの紹介		友人知人からの紹介		日本留学フェアなど		その他		計
	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)
全体	133	35.6	114	30.5	144	38.5	24	6.4	85	22.7	374
学生身分	学部生	6	60.0	1	10.0	3	30.0	1	10.0	3	30.0
	博士課程前期	61	40.4	42	27.8	54	35.8	9	6.0	47	31.1
	博士課程後期	37	29.6	30	24.0	61	48.8	4	3.2	27	21.6
	研究生	25	47.2	14	26.4	24	45.3	3	5.7	6	11.3
	特別聴講学生	3	9.1	27	81.8	2	6.1	7	21.2	1	3.0
	その他	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0
私費・国費	私費	82	36.6	85	37.9	83	37.1	18	8.0	29	12.9
	国費	22	33.8	16	24.6	26	40.0	1	1.5	22	33.8
	政府派遣	5	25.0	4	20.0	9	45.0	1	5.0	5	25.0
	その他	24	36.9	9	13.8	26	40.0	4	6.2	29	44.6
専門	理系	62	46.6	31	23.3	56	42.1	14	10.5	30	22.6
	文系	60	28.8	77	37.0	74	35.6	9	4.3	42	20.2
	その他	11	33.3	6	18.2	14	42.4	1	3.0	13	39.4

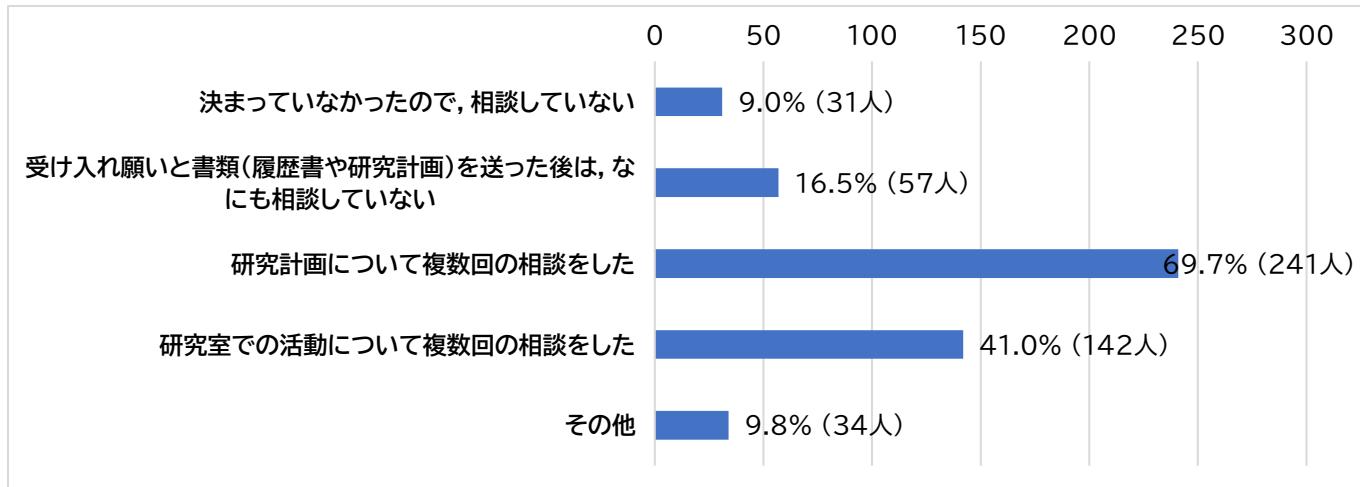
「友人・知人からの紹介で本学を選んだ」と回答した割合が全体で最も高い。特に、例年の傾向として、国費留学生においては友人や知人からの紹介で本学を選んだ学生の割合が高くなるが、今年度も同様の傾向が見られた。出願プロセスが特殊なため、身近に国費留学生として日本の大学に在籍している知人がいる場合等は助言等を受けやすいことから、出願経験のある友人・知人の存在が出願に繋がっている可能性がある。

昨年度の特徴に引き続き、本学の HP を見て本学を選んだ学生の割合が友人・知人からの紹介で本学を選んだ学生の割合と同様に高くなっている。優秀な国費留学生の獲得という観点からも、友人・知人の中に国費留学生として出願した経験がある者がいない学生であっても、IAAS やウェブサイト等での情報提供を通じて出願してもらうことが重要である。

学生身分や留学資金源(私費・国費)、専門ごとに異なる傾向がみられるが、特に友人・知人からの紹介が全体的に重要な役割を果たしていることがうかがえる。

### 3.3 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？(複数回答可)

#### 【回答者全体】

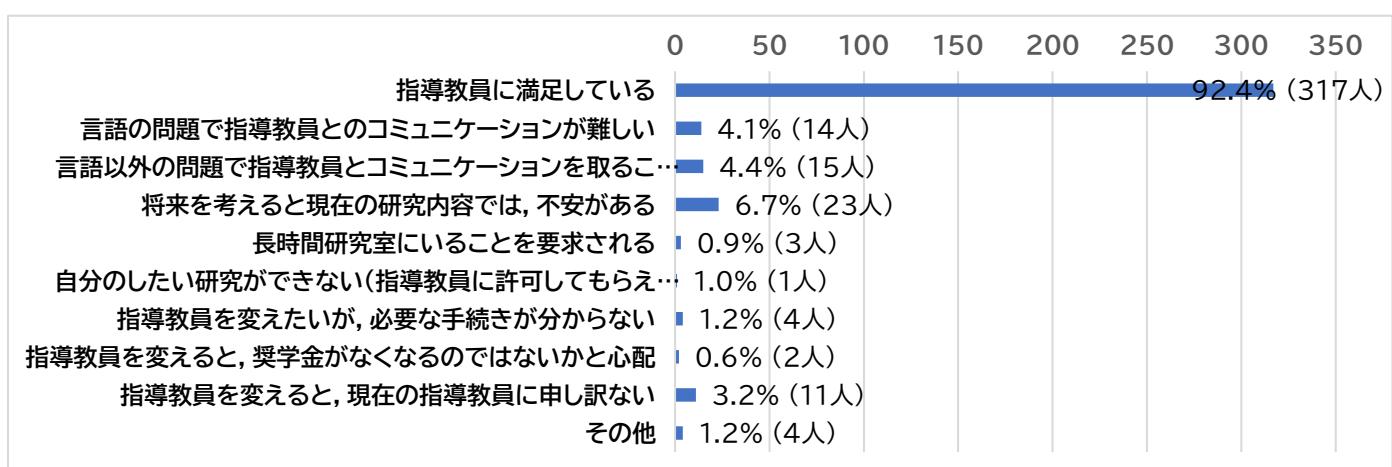


昨年度は、質問の意図が伝わっていなかったのか、回答者数は 5 名のみだったが、今年度は346名から回答を得られた。昨年度は「決まっていなかったので、相談していない」と回答した割合が60% (n=5)と最も高かったのに対して、今年度の同回答は全体の9% (n=31)に留まり、「研究計画について複数回の相談をした」が 69.7%で最も高く、次いで

41.0%の「研究室での活動について複数回の相談をした」となった。本設問は複数回答可と設定していたため、回答者346名に対して、505件の回答が得られた。

### 3.4 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？(複数回答可)

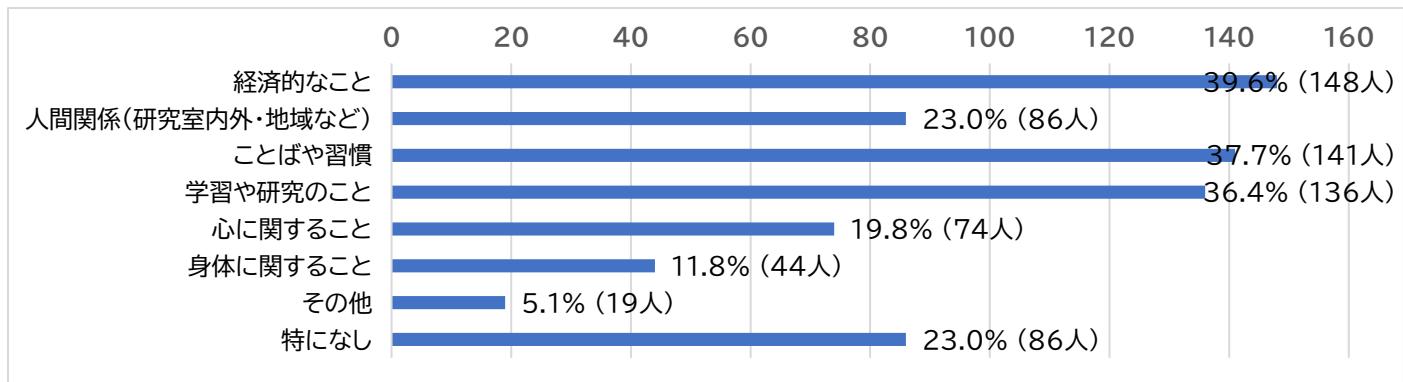
#### 【回答者全体】



昨年度の 88.2%を上回り、今年度は 92.4%の学生が指導教員に満足していると回答しており、指導教員との関係は多くの学生にとって良好であることがうかがえる。指導教員との関係において学生が抱えている問題の中で最も割合が大きかったものは将来への不安（「将来を考えると現在の研究内容では、不安がある」 6.7%）、次いで言語の問題に起因するコミュニケーションの課題（「言語以外の問題で指導教員とのコミュニケーションが難しい」 4.4%）となった。「長時間研究室にいることを要求される」は 0.9% (n=3) で、昨年の 2.3% (n=5) より減少した。

## 4. 学生生活支援について

### 4.1 学生生活の中で困っていることがありますか？(複数回答可)



全体の傾向としては、経済的なこと、ことばや習慣に関すること、学習や研究に関することが最も多い困りごとである。ただし、学生の属性(学籍、資金源(私費・国費)、専門分野)によって異なる傾向が見られた。属性別の主な傾向は以下のとおりである。

#### (学生身分の傾向)

- ・学部生は、「人間関係(研究室内外・地域など)」に関する問題が特に高い(60.0%, n=6)
- ・博士課程前期の学生は、「学習や研究のこと」(37.7%, n=57)と「経済的なこと」(36.4%, n=55)に関する問題が同程度に高い
- ・博士課程後期の学生は、「経済的なこと」に関する問題が特に高い(48.0%, n=60)
- ・特別聴講学生は、「人間関係(研究室内外・地域など)」と「ことばや習慣」に関する問題が同程度に高い(いずれも 42.4%, n=14)

#### (私費・国費別の傾向)

- ・私費留学生は、経済的な問題が特に多く(49.6%, n=111)、次いで学習や研究に関する問題が挙げられている(38.8%, n=87)。
- ・国費留学生は、ことばや習慣に関する問題が最も多い(38.5%, n=25)。

#### (専門別の傾向)

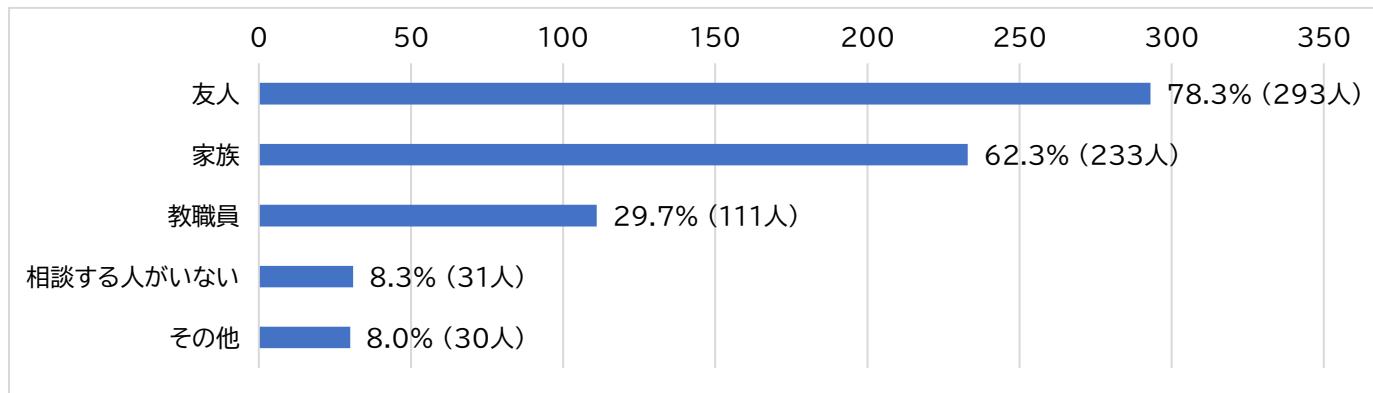
- ・理系の学生は、ことばや習慣に関する問題が最も多く(42.9%, n=57)、次いで学習や研究に関する問題が挙げられている(36.8%, n=49)。
- ・文系の学生は、経済的な問題が最も多く(43.3%, n=90)、次いで学習や研究に関する問題が挙げられている(34.6%, n=72)。

		経済的なこと		人間関係 (研究室内外・地域など)		ことばや習慣		学習や研究のこと		心に関すること		身体に関すること		その他		特になし		計
全体		148	39.6	86	23.0	141	37.7	136	36.4	74	19.8	44	11.8	19	5.1	86	23.0	374
学 生 身 分	学 部 生	5	50.0	6	60.0	6	60.0	5	50.0	4	40.0	3	30.0	0	0.0	2	20.0	10
	博 士 前	55	36.4	28	18.5	47	31.1	57	37.7	28	18.5	16	10.6	12	7.9	42	27.8	151
	博 士 後	60	48.0	26	20.8	49	39.2	43	34.4	28	22.4	18	14.4	6	4.8	20	16.0	125
	研 究 生	19	35.8	12	22.6	25	47.2	19	35.8	8	15.1	4	7.5	1	1.9	13	24.5	53
	特 別 先 候	9	27.3	14	42.4	14	42.4	11	33.3	6	18.2	3	9.1	0	0.0	8	24.2	33
	その 他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	2
私 費 国 費	私費	111	49.6	63	28.1	87	38.8	89	39.7	52	23.2	32	14.3	6	2.7	43	19.2	224
	国費	15	23.1	7	10.8	25	38.5	18	27.7	10	15.4	6	9.2	4	6.2	18	27.7	65
	政 府 派 遣	5	25.0	5	25.0	13	65.0	10	50.0	3	15.0	2	10.0	1	5.0	2	10.0	20
	その 他	17	26.2	11	16.9	16	24.6	19	29.2	9	13.8	4	6.2	8	12.3	23	35.4	65
専 門	理 系	48	36.1	31	23.3	57	42.9	49	36.8	28	21.1	18	13.5	7	5.3	33	24.8	133
	文 系	90	43.3	47	22.6	68	32.7	72	34.6	40	19.2	25	12.0	10	4.8	47	22.6	208
	その 他	10	30.3	8	24.2	16	48.5	15	45.5	6	18.2	1	3.0	2	6.1	6	18.2	33

この分析結果から、国費奨学金を受給している学生は私費留学生と比較して経済的な困りごとが少ないなど、学生の困りごとはそれぞれの属性や状況によって異なるが、特に経済的な問題やことばや習慣に関する問題は多くの学生に共通していることが見て取れる。

#### 4.2 困ったことがあるときにはおもに誰に相談しますか？(複数回答可)

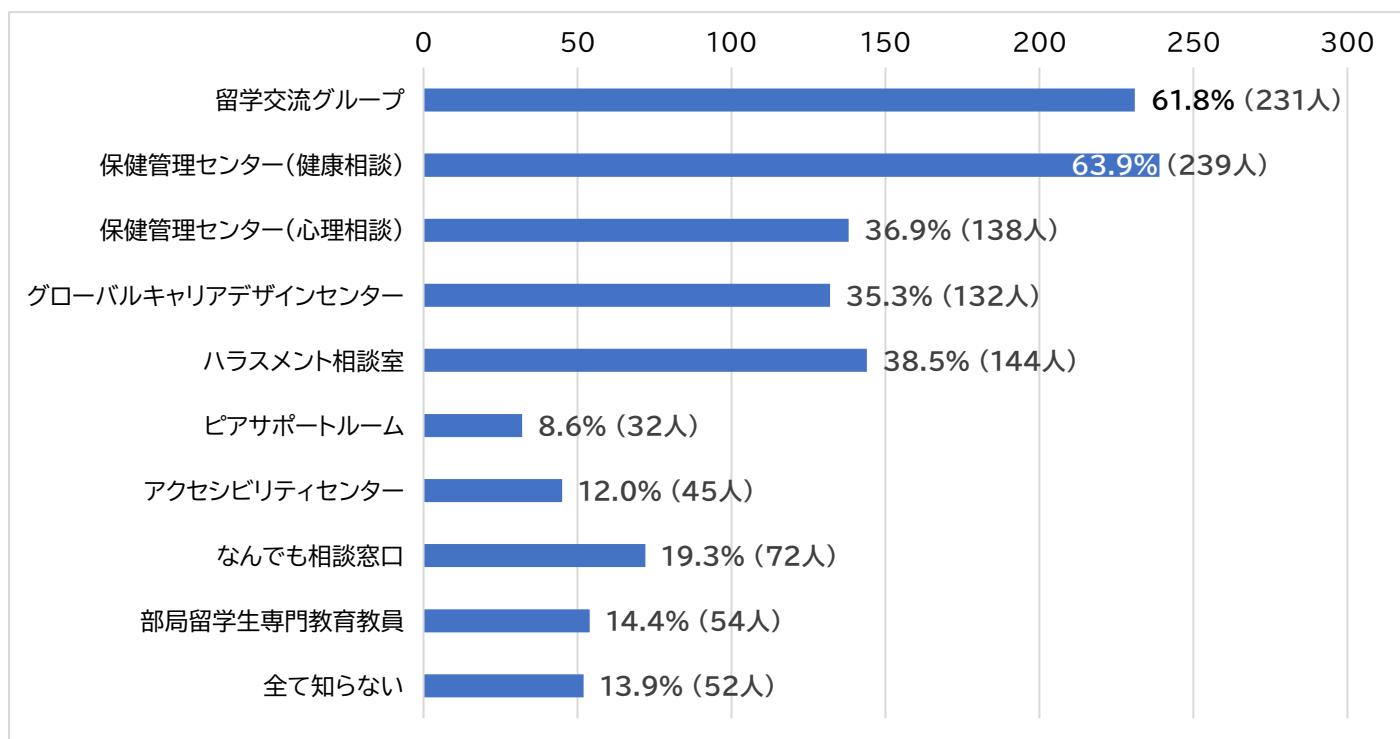
##### 【回答者全体】



例年同様、相談先として最も多い回答は友人及び家族となった。本設問については、属性別の大きな違いは見られなかった。いずれの項目の回答割合も、昨年度とほとんど変わりなかった。

#### 4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？(複数回答可)

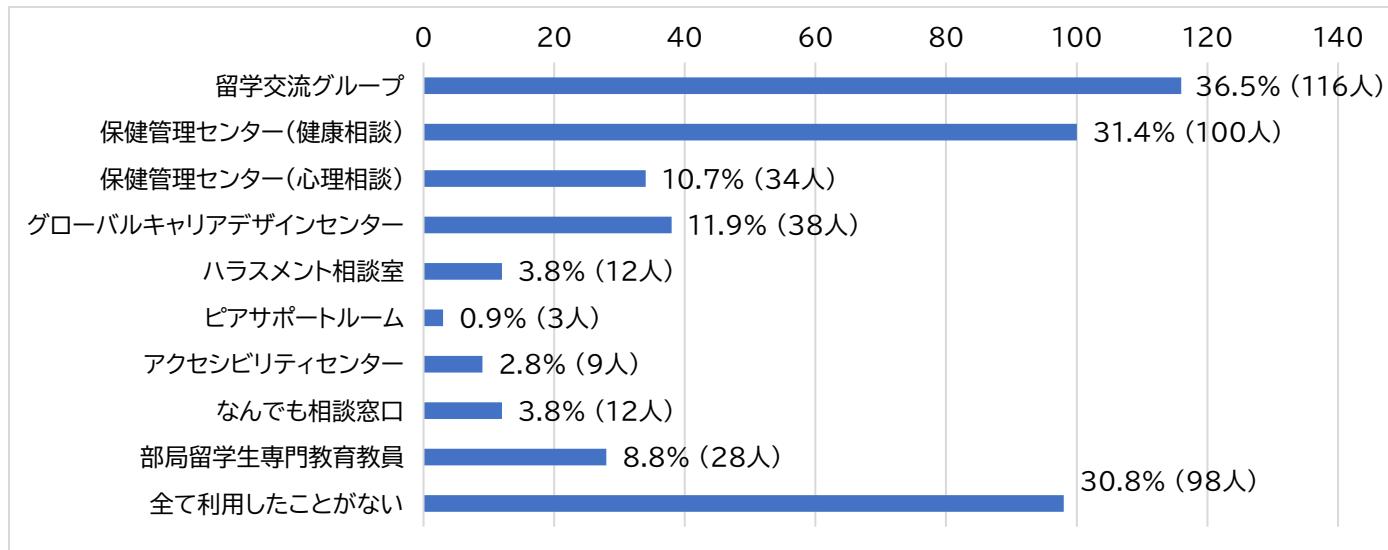
##### 【回答者全体】



昨年度、最も多い回答は「留学交流グループ」であった(57.4%, 136名)が、今年度は「保健管理センター(健康相談)」が最多となった。一昨年度の8.5%、昨年度の50.6%に続き、今年度は63.9%と大きな増加が続いている。「ピアサポートルーム」は昨年度の認知度が4.2%(n=10)であったのに対し、今年度は8.6%(n=32)まで増加した。一方、相談窓口を「全て知らない」と回答した留学生の割合は一昨年度から減少(16.9%→14.8%→13.9%)した。

#### 4.4 学生生活支援のための次の相談窓口を利用したことがありますか？(複数回答可)

【回答者全体】

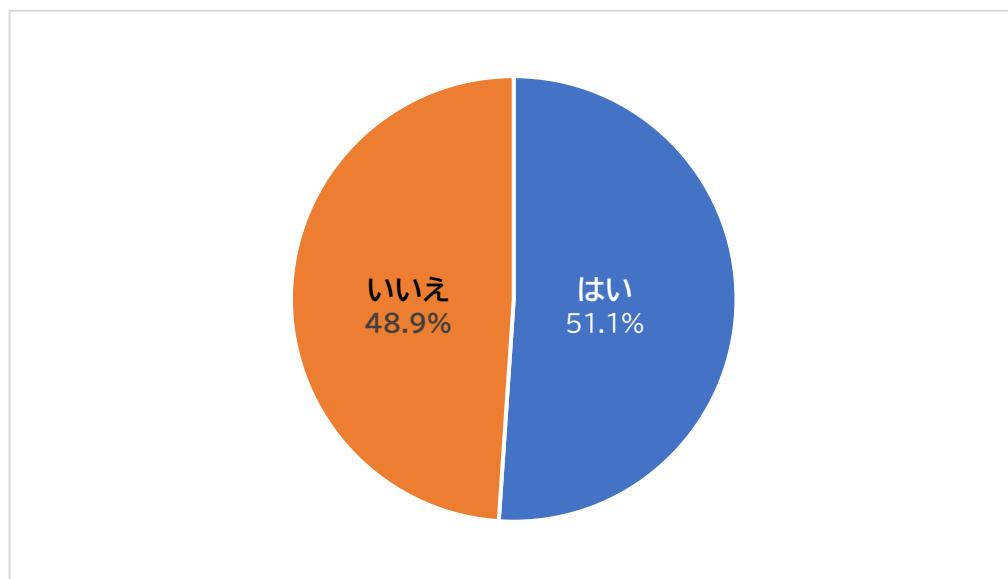


「全て利用したことがない」と回答した割合は、昨年度(41.2%, 84名)から減少した。昨年度は回答者が0名だった「ピアサポートルーム」は、今年度は3名から回答が得られた。

「保健管理センター(心理相談)」のみ昨年度より割合が減少した(12.3%→10.7%)が、その他の相談窓口の利用率はいずれも増加した。最も回答割合が高い項目は、昨年度に引き続き留学交流グループであった。

#### 4.5 あなたは日本の企業への就職を希望していますか？(有効回答 374)

【回答者全体】



回答者全体のうち、51.1%が日本企業への就職を希望しており、昨年度の46.4%から増加した。

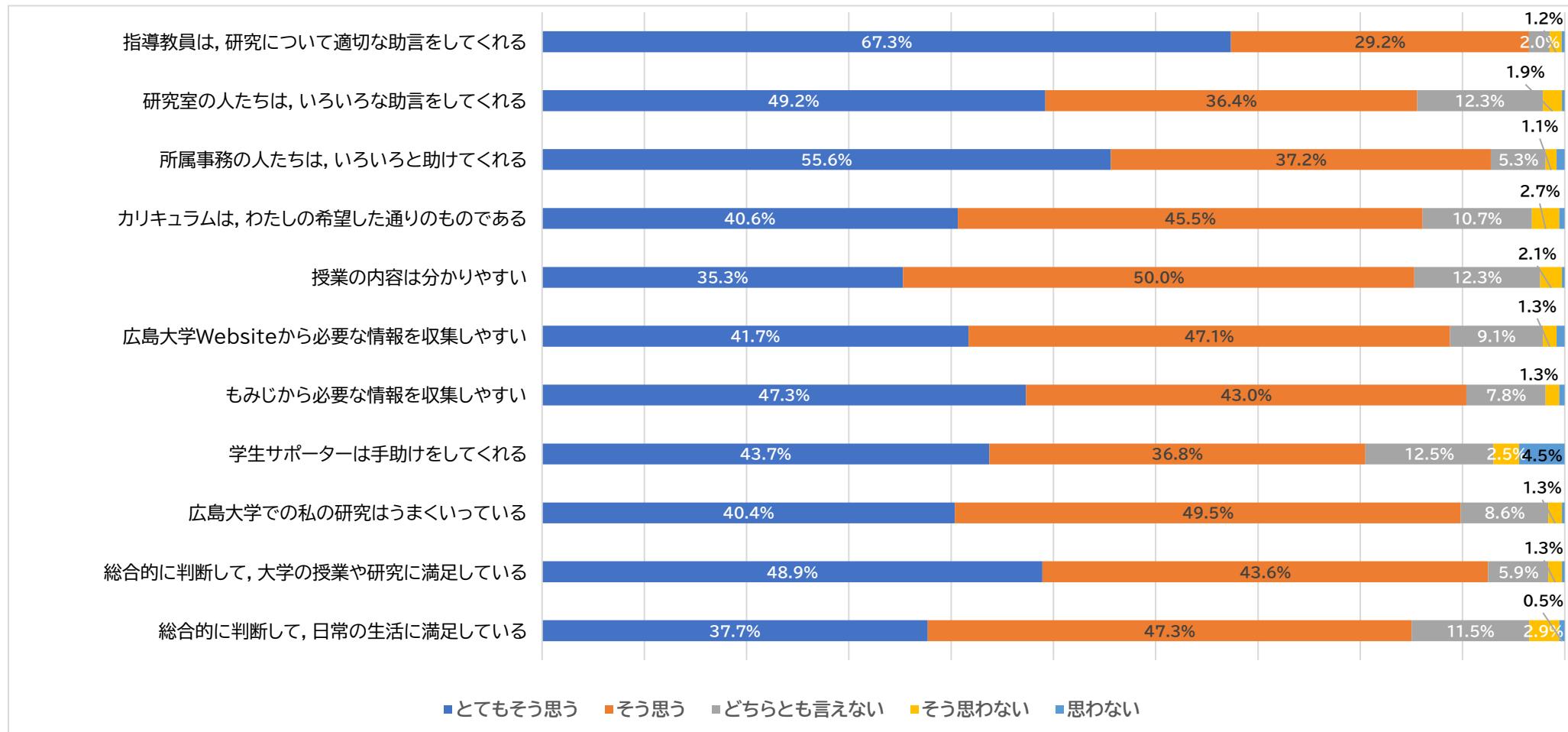
		はい		いいえ		計
		n(人)	%	n(人)	%	
全体		191	51.1	183	48.9	374
学生身分	学部生	8	80.0	2	20.0	10
	博士課程前期	77	51.0	74	49.0	151
	博士課程後期	57	45.6	68	54.4	125
	研究生	30	56.6	23	43.4	53
	特別聴講学生	19	57.6	14	42.4	33
	その他	0	0.0	2	100.0	2
私費・国費	私費	132	58.9	92	41.1	224
	国費	31	47.7	34	52.3	65
	政府派遣	5	25.0	15	75.0	20
	その他	23	35.4	42	64.6	65
専門	理系	77	57.9	56	42.1	133
	文系	103	49.5	105	50.5	208
	その他	11	33.3	22	66.7	33

学部生は 80%(n=8)が日本企業への就職を希望している。博士課程前期の学生は「はい」が「いいえ」をわずかに上回っているが、博士課程後期の学生「いいえ」が「はい」を約 1 割上回っている。

また、専門別にみると、文系は「はい」も「いいえ」もほとんど同数であるが、理系は「はい」の回答が「いいえ」より約 15%多い。

## 5. 広島大学における学習、生活に関する満足度

広島大学に関する以下の内容について、あてはまる回答の数字を選択してください。



例年と比べて大きな傾向の変化は見られなかった。「総合的に判断して、大学の授業や研究に満足している」に「とてもそう思う」と回答した割合は、昨年度の 38.8%から約 10%増加した。「とてもそう思う」と「そう思う」の割合を合計すると 92.5%となり、多くの学生が本学での学びに高い満足度を持っていることがうかがえる。「総合的に判断して、日常の生活に満足している」に「とてもそう思う」と回答した割合は、昨年度の 29.1%から約 9%増加した。

留学生満足度の平均値経年比較(※5.0が最も満足度が高く、1.0が最も低い)

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (前年度との比較)
指導教員は、研究について適切な助言をしてくれる	4.43	4.34	4.36	4.52	4.47	4.52	4.57	4.59	4.55	4.57	4.62 ↑
研究室の人たちは、いろいろな助言をしてくれる	4.08	4.11	4.02	4.12	4.05	4.13	4.17	4.18	4.65	4.20	4.33 ↑
所属事務の人たちは、いろいろと助けてくれる	4.25	4.32	4.34	4.35	4.31	4.36	4.32	4.38	4.37	4.40	4.46 ↑
カリキュラムは、わたしの希望した通りのものである	3.75	3.89	3.96	4.03	4.01	3.98	4.06	4.16	4.51	4.02	4.23 ↑
授業の内容は分かりやすい	3.76	3.88	3.84	3.93	3.99	3.91	4.08	4.15	4.25	4.08	4.17 ↑
広島大学 Website から必要な情報を収集しやすい	3.86	3.00	3.99	4.03	4.06	4.12	4.09	4.07	4.28	4.14	4.28 ↑
もみじから必要な情報を収集しやすい	-	-	4.12	4.17	4.20	4.26	4.20	4.20	4.21	4.26	4.35 ↑
学生センターは手助けをしてくれる	3.86	4.08	4.02	4.00	3.99	3.98	3.97	3.87	4.32	4.10	4.13 ↑
広島大学での私の研究はうまくいっている	3.87	3.92	3.96	4.04	4.00	4.09	4.03	4.10	4.13	4.10	4.29 ↑
総合的に判断して、大学の授業や研究に満足している	4.12	4.10	4.16	4.14	4.17	4.22	4.21	4.23	4.25	4.23	4.40 ↑
総合的に判断して、日常の生活に満足している	4.03	4.02	4.02	3.99	3.98	4.05	3.95	3.99	4.40	4.06	4.40 ↑

昨年度と比較して満足度は全体的に向上している。

## 6. 自由記述(質問項目「なにか意見がありましたら、書いてください。」)

「特になし」等の回答を除き 40 名が回答。回答を原文のまま抜粋して以下にまとめる。

### (生活環境・利便性)

- ・留学生推奨アパートは高いし、古いです。留学生推奨アパート以外の選択肢を申請するのはとても難しいです。
- ・The Lunch space to be established in the IDEC building for students who bring their own food to campus Common space for phone calls to be established in the IDEC Building

### (経済的負担)

- ・文系の博士後期生にもっと経済的な支援をしていただければ助かります。文系の博士後期は、留年が常態化している中、健康的にも経済的にも負担が大きくなるので、経済的に学校から支えられると少しは楽になるでしょう。
- ・経済的な困難があって、勉強や研究でアルバイトをする時間が十分に取れない学生にとって、経済的な援助ができれば、もっといいだろう
- ・奨学金が欲しいです。いまは父は無職になります。経済の面でとても困っています。
- ・経済的な支援を申請しているものの、なかなか選考に通らず、厳しい状況が続いています。特に、文系の留学生としては、生活費だけでなく研究にも多くの費用がかかるため、経済的な負担が非常に大きいと感じています。例えば、研究資料の購入やデータ収集、学会参加費用などが必要ですが、それらの費用を自己負担するのは容易ではありません。また、アルバイトをすることである程度の収入を得ることはできますが、研究や授業との両立を考えると、限界があります。そのため、留学生向けの経済的支援の枠を広げたり、より多くの学生が支援を受けられるような制度の改善が求められると感じています。
- ・Hope in the future, next scholar could get other scholar for research grants

### (教育・研究指導)

- ・留学生の質がばらつきで良い勉強のできる環境ができていないと思います。特に一部の奨学金をもらった学生は学力のどころか、最低限の学生としての態度がなく、ゼミに参加することすらできていないです。国費か JICA などの留学生の受け入れについて再考すべきだと思います。指導教官がもし学生の面倒を見れない場合、多数の学生の受け入れも遠慮すべきではないかと思います。なお、研究科の評価水準が低く、いくら質の悪い論文でも卒業できます。それに伴うこの大学の学位の価値も下がるしかないと私は思います。
- ・Sometimes, the course for us is in all Japanese, it would be a little troublesome to us. I could understand a little Japanese, but my friend is really troubled by this.
- ・大学での学習生活をどのように送っていくか迷っています。
- ・HU may consider raising admission standards to ensure that more qualified students are enrolled at Hiroshima University. This would enhance the value of the degree, not only in the job market but also among global universities. I believe that faculty and administrators should carefully consider how to improve textbooks and course materials so that the knowledge and skills taught at the university better align with market demands.
- ・I wish regulations could be made on how long students spend in the laboratories on research. This will help the students to have a work-life balance, and also have the opportunity to learn other skills, and eventually be more productive.

### (進路)

- ・I am anxious about whether I can graduate on time. I have a contract with my employer in my home country and a scholarship that requires me to complete my degree in three years. I have not yet submitted a paper for publication, which is a requirement for graduation.
- ・Want to get more employment guidance

### (人間関係・コミュニティ、課外活動)

- ・博士課程後期に進学してから、同期が一気に減り、さらに東広島は田舎なので、関わるのは基本的に研究室の同郷の人たちだけです。自分から人間関係を広げようとしても、そもそもきっかけがなく、単調な一人暮らしの研究生活が続くだけで、「本当に留学してるのかな」と思うほど実感がありません。
- ・If there is an event to go famous place near Univ. or to play something with Japanese, I think it is better to make friends.
- ・There are no activities or societies for postgraduate international students.
- ・Nowadays, Japan is like my home. So I want to explore Japanese culture, nature and all the beautiful places in Japan. But somewhat I can not meet this. I think Hiroshima University can arrange tour for international student in many places to visit.
- ・loneliness sometimes is the only issue here. Missing the family at times

### (その他、複数のカテゴリーに跨った意見)

- ・広島大学に入学した時、指定学習や生活上の支援者を与えてくれなかった。
- ・I feel somewhere there is something missing. So, sometimes I lose my interest.
- ・Live in Higashi Hiroshima is really good. It is very comfortable and nice. However I didn't really enjoy the academic life. The system is quite confusing for me. I think I need more guidance. I also find it hard to make Japanese friends in campus. I felt lonely and stressed lot of times
- ・I am actively pursuing job opportunities in Japan, particularly in academia, as a lecturer or researcher, given my academic background and expertise. Despite my efforts to secure a position in my home country, I have faced multiple rejections, including for a lecturer position at my home university. However, it has motivated me to explore opportunities where I can contribute meaningfully. With a master's degree and soon a doctoral degree from Hiroshima University, I have gained valuable international academic experience, particularly in STEM education, inclusive learning, and DEI initiatives. Japan's strong commitment to research and innovation aligns with my aspirations, and I believe my expertise can contribute to advancing education and research in this field.
- ・I have a comment about the accommodation, regarding the lack of a refrigerator and microwave. And the program salary.

### (ポジティブなフィードバック)

- ・満足です。広島大学を選んで、今の研究室を選んでよかったです。日本で就職したいです。
- ・広島大学の生活、学習にとても満足しています。
- ・Thanks a lot for the supervision and all supports in HU.
- ・I would like to deliver more appreciation to my professors and the students support office staff for their great work. They are really supportive and make living in Japan easier.
- ・I am grateful to all especially to my Academic Supervisor, my Nihongo Senseis,

- the Morito Office and Student Supporters. They are all kind and accomodating.
- This is really great experience for me to explore, not only the academic. I hope I can learn more in the university and Japan.
  - Everything in Hiroshima is better for me . It's make me a convenient. No comments.
  - I am very satisfied with my study time in Hiroshima University
  - I am grateful to the people of Japan and Hiroshima University, who provided me with the opportunity to improve my knowledge and skills.
  - Hiroshima University is a good palce for study here!
  - The student support was very useful to set up necessary services. I was lucky that my supervisor contacted me on the first days in Hiroshima University and I could meet with her on a regular basis from early on, which helped me ease into the research during the Japanese intensive course. I appreciate the teachers who taught Japanese language, culture and daily life (Yamanaka-sensei, Damaso-sensei and Watanabe-sensei). Continuing my Japanese studies I am grateful for Damaso-sensei, Sugimoto-sensei and 徐-sensei for helping me prepare for Japanese speech competitions. Especially Damaso-sensei who spent a lot of time correcting my essay and pronunciation. In my research I was supported by Kawaguchi-sensei, who also organized an opportunity to share about Estonia`s history and education system in Osaka University. Not to mention the guidance and support I got from her to conduct my research questionnaire, interview and the whole completion of the research itself.
  - I enjoy studying in HU
  - My daily life in Hiroshima University and Higashihiroshima in general has been great, so far. Everyone has been helpful and the environment is truly conducive for learning.
  - I'm grateful to be among of the student at Hiroshima University.
  - I have been living in Japan for half a year now. Everything is going well and my studies are progressing as planned.